

スコップ三味線で、笑顔と元気を！

音楽に合わせてスコップと
栓抜きで演奏パフォーマンス

スコップを楽器のように打ち鳴らし、音楽に合わせて演奏パフォーマンスを披露する「スコップ三味線」。その力強い音と動きを楽しみ、栗野公民館を拠点に活動しているグループが「すこっつぶサウンドズ」です。

スコップ三味線は、1985年に青森県五所川原市在住の館岡屏風山氏たてがきやま びんぷ山が



メンバーは、栗野地区の60~80代の男女計16名。

考案したもので、栓抜きでスコップを叩く音と津軽三味線独特の叩きつけるような打楽器の奏法とがマッチし、本場に演奏しているかのようなライブ感を聴衆と一体となつて楽しめます。スコップと栓抜きがあれば誰でもできる手軽さから、宴会芸として全国的に知られるようになりました。

「すこっつぶサウンドズ」結成のきっかけは、栗野地区区長会と福井市本郷地区で活動する「七瀬すこっぱーず」との交流会。スコップ三味線の生演奏を鑑賞し、高齢のメンバーが楽しそうにスコップを叩く姿に感銘した区長会の有志が発起人となり、栗野地区の活性化をめざして2014年活動をスタートしました。

巧みなパフォーマンスで
世界大会3位入賞

「すこっつぶサウンドズ」が注目されるようになったのは、2015年に青森県五所川原市で開かれたスコップ三味線の世界大会。なんと、初出場ながら3位入賞という快挙を成し遂げたのです。

世界大会では、観る者を魅了するパフォーマンスや演出が評価のポイント

となります。

「すこっつぶサウンドズ」は熱湯にドライアイスを投入し、もくもくと立ち込めるスモークを津軽の冬景色に見立てた演出で、冒頭から観客の目を釘付けに。さらに曲の間奏時にスコップの持ち手に付けた「つるが三味線」の「る」と「が」の文字を素早く入れ替えて「つがる三味線」に変換。最後に敦賀市章を五所川原市のロゴに転換するという鮮やかなパフォーマンスで、観客の心を掴みました。3位入賞を機に市内外から出演依頼が多数舞い込むようになり、現在は各地で演奏活動を行なっています。



世界大会では息のあったパフォーマンスを披露。

ボランティアとして
各地で演奏活動を

「すこっつぶサウンドズ」のレパートリーは幅広く、歌謡曲から演歌、洋楽ポップス、アニメソングまで100曲以上。



毎週水曜に行われている栗野公民館での練習風景。スコップに特製栓抜きを叩きつけてリズムを刻みます。写真手前はリーダーの橋本正光さん。

町内の祭りや敬老会、地域のイベント、病院への慰問など、依頼に応じてボランティア公演を行なっています。

現在、メンバーは16人。平均年齢は70歳を超えています。阿波踊り大会の優勝者やセミプロの女性歌手など芸達者なメンバーが揃っており、いかにお客さんに楽しんでもらうかを考えながら技を磨いています。

昨年は敦賀市制80周年記念のPRソング「We Love TSURUGA」を企画し、CDも制作。精力的な活動で、地域に笑顔と元気を届けています。

〈すこっつぶサウンドズに関するお問い合わせ〉

●リーダー 橋本 正光様

TEL 090・1635・6545